



羽ノ浦町とのご縁

羽ノ浦町とのご縁をいただいて十数年が経ちます。

初めて羽ノ浦町に足を踏み入れたのは、阿波踊りグループ「やめら連」に入った時のことです。当時は、まだ独身でした。日曜



羽ノ浦町
仁尾 和子さん

引越してきた時には、初めから運命に決められていたかのような不思議な感じでした。

私は、仕事

そこで主人と出会いました。初めは男踊りのライバル同士でした。私は、この人だけには負けたくない!と思いつつ、水神祭やコスモス祭り、阿南の夏まつりにもお互い仲間として参加していました。そうこうするうち、ライバルのはずが、いつの間にか引かれ合い結婚に至りました。結婚し、

2人の息子が生まれてからも一緒に阿波踊りを続け、阿南市内に通っていました。

そんな中、主人が、もともと多くの人の直接役に立つ仕事をしたと、徳島新聞販売店へ転職をしました。どこの地域で販売店をさせてもらうのか?不安でたまりませんでした。そして、羽ノ浦町の販売店を預かることが決まった時、縁を感じないわけにはいきませんでした。縁のある場所

も子育てもまだまだこれからです。もつともつと地域の方々と交流をして、阿南市のいろいろな事を教わりたいたいと思っています。このご縁のある地でのこれからが楽しみです。次は、羽ノ浦町の松坂愛貴さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

香川ミヨ子
毀れやすきレタスの葉つぱパリと剥ぐ朝の厨の清しきはじまり

中原 一
おほかたは過ぎたるひとよ一生来世また誰をか求む花いちもんめ

米田千代美
陽に干しし布団の匂う部屋にいて主婦なるわれの一人の時間

徳川 明美
不条理を正す力のなけれども苺白花ひかりを反す

臣永 悦子
山菜を摘め得ぬ被災地偲びつつ今朝露の臺小さきぎざむ

矢野 道子
眩しかり小春日いっばい注がれて母の柩は今出でんとす

青木 弘子
児ら五人思い思いのゲーム機にメダカのように指先踊る

俳句

阿南市俳句連合会選

品川 重晴
秋冷がそぞろに寄せる膝頭

小京都うねる大屋根秋茜

嫁ぎきて健やかに老い菊日和

父の碑の植木刈込み秋惜しむ

晩年を何時とも知らず天高し

まつたけ飯みんな無言の機内食

書を閉じて目のツボを押す良夜かな

鷹渡る空に高さのありにけり

大鍋の匂ひ流して芋煮かな

秋天の阿波に始まる札所道

青木 慧

阿部 勝代

陶久 晴義

山根 溪風

宮田 春子

竹治 綾子

小西 晴美

東條 当子

奥田 蒼朗

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

きれいなあ隣の芝も奥さんも

猛打賞それでも代打送られる

ほろ苦き言の葉包むオブラート

破れない古着眺めてまた仕舞う

衝動買い家の鏡に責められる

橋本 征介

岡本 福笑

西田 修身

佐藤つたえ

臣守 愛香